

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科 職階 教授

氏名 藤田 幸弘

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学部ならびに大学院教育を担当しており、主に小動物臨床外科および手術に関する実習、および本学附属動物病院に来院した症例を使用した実習では、整形外科を担当している。実習においては、整形外科疾患に対する系統立てたアプローチの重要性を理解することを主目的としている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医外科学	獣医学科	必修	4	140
小動物獣医総合臨床I	獣医学科	必修	5	140
総合獣医学	獣医学科	必修	6	140
小動物病院実習	獣医学科	選択	6	のべ3
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5	140
卒業論文	獣医学科	必修	6	4
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	140
基礎・小動物獣医総合臨床II	獣医学科	必修	4	140
獣医外科学特論	研究科獣医学専攻	必修	1	3
動物人間共生論	動物応用科学科	必修	1	120
獣医学特論I	獣医学科	必修	5	4
獣医学特論II	獣医学科	必修	6	6

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

講義科目では、教員からの一方的な講義を学生に聴講させるだけではなく、学生自身が考え、理解することを目指している。そのための工夫として、配付資料内に学生が記入できるような括弧を複数箇所設けており、自ら考え、実際に書くことで知識として定着することを期待している。実習科目では、実習の目的を理解した上で実習に臨むように指導し、理解度を確認するために、質問を募り、質問がない、という場合には教員から基本的な内容、よくある質問を中心に質問し、学生と教員間でディスカッションを行うようにしている。臨床科目となるので、インプットするのみではなく、常にアウトプットする訓練を行うことを意識して、教育を行っている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

学生が自ら考えることを促すために、配付資料内に括弧埋めをさせるようにしている。教員から質問する内容は、基礎的な内容から始め、教員から早々に正答を明かさずに、学生自身の言葉で回答するように促している。おおよそ、学生からの回答が出そろった時点で、教員が正しいと考える答えを学生に伝える。学生がその答えに納得する場合もあるが、当然ながら、納得しない場合もある。納得しない場合は、なぜ納得にまで至らないのか、その理由をさらに考えさせ、できるだけ学生自身で納得する状態に到達するようにサポートする。

(2) ICTの教育活用

有

実習科目においては、学生が行う実習内容の動画（デモンストレーションなど）を配信している。さらに、実習内で学生が行う症例発表および検討については、発表に使用するプレゼンテーションファイルを作成するための情報（静止画および動画ファイル）を提供し、学生自身がプレゼンテーションソフトによって作成する。そのファイルを使用して、受講学生および教員に対し症例発表を行った後、検討（ディスカッション）を全員で行っている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

講義時間内に、スマートフォンを利用したアンケート方式による小テストを複数行っている。

(2) 学生の理解度の把握

B

小テストを複数回行うことで、段階的に履修学生全体の理解度を評価することを試みているが、各学生の理解度は評価できていない可能性が高い。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

学生が考えて答えを導けるよう、その場の雰囲気作りや事前資料の充実に努めている。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

講義においては、複数の小テスト、実習においては、まず学生に話をさせるなど、積極的な参加がしやすい環境を作る努力をしている。

(5) 双方向授業への工夫

A

すぐに答えを伝えず、学生自身の回答に至った経緯を共有することによって、インプットのみ偏らないように努力している。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

過去の問題を参考にし、正答の導き出し方や、正答に至るまでに必要な知識について、詳細を解説している。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

具体的な要望があった場合には、次回の授業・実習に反映させる努力した。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

とくに要望がなかったため、新たな取り組みは実施していない。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

次年度以降、何か要望があれば、可能な限り早急に対応する。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

インプットするだけでなく、インプットした情報・知識を自分の言葉でアウトプットできるように、学生には基礎的（簡単な）な質問から開始するようにしている。たとえ、質問に対する回答が明らかに間違っていたとしても、全てを否定することはせず、何かしらの理由をつけ、少しでも肯定するようにし、正答に近づくようにヒントを与えながら、学生の積極性を潰さない（消極的にならない）ように努めている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

講義を聴講後、関連実習を行い、さらに実際の診療活動を見学した際に、点と点がつながって腑に落ちた、という感想を学生から得た。教員側から促さなくても、自ら質問するようになり、麻布大学の学生は質問ができて素晴らしい、学生の学ぶ姿勢を間近に見て獣医師として初心を思い出させてくれた、というコメントを外部の獣医師より頂いた。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

大学教育に関わるFDについては、可能な限り参加したつもりであり、今後についても、附属動物病院での診療業務などが無い限り、参加する予定である。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

短期目標：質問を自ら考え、積極的に質問できる学生を増やすこと。投げかけられた質問に対して、自分の言葉で考え、回答できる学生を増やすこと。学生が疑問に思ったことを、そのまま放置せず、解決する努力をする考え方を定着させること。

長期目標：学生間、または学生と教員で濃密なディスカッションがスムーズに行えること。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。